

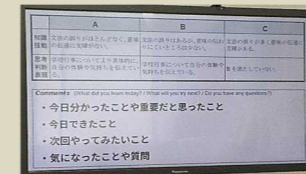


**【単元】** 第2学年 PROGRAM 4 “High-Tech Nature” (開隆堂出版)  
**【領域別目標】** 話すこと [発表] イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。  
**【単元目標】** 日本の商品や技術に関心がある海外の人におすすめのものを購入してもらうために、商品のチラシや広告、資料をもとにして、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができる。

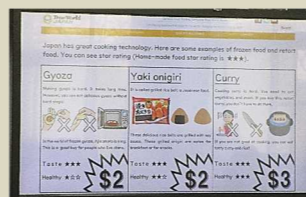
**G o a l:** 商品のチラシや広告、資料をもとにして、日本の商品や技術を紹介する  
**R o l e:** YouTuber になったつもりで、海外の人に日本の商品や技術を紹介する  
**Audience:** 日本の商品や技術に関心がある海外の人  
**Situation:** 日本の YouTuber であるあなたに海外の人たちから「日本のおすすめの商品を教えてください!」「日本に旅行に行くときのおすすめを教えてください!」とコメントが来ました。コメントをくれた人たちのためにぴったりの商品や情報をリサーチして、動画で伝えましょう。  
**Performance:** YouTube 動画 (紹介動画)  
**Standard:** ルーブリック

言語材料と言語活動とを効果的に関連づける

- 「商品を手相にすすめる」という「比較表現」の有用性が感じられるような言語活動を設定している。
- ルーブリックの活用**
- 単元の最初にルーブリックを示して、子供とゴールイメージを共有している。
- 中間指導や振り返りの際に、子供たちが自分の活動を振り返る視点として活用している。
- ルーブリックに示されている「視聴者に分かりやすく」と「より具体的に」の詳細については、最初から示さず、単元を進めていくなかで一緒に考えることで、子供たちは見方・考え方を働かせながら話すことができる。
- 子供に興味を持たせられるような工夫**
- 単元のゴール活動として、YouTuber になったつもりで、という子供たちにとって身近で関心のある目的や場面、状況を設定することで、子供の意欲を引き出している。



【提示資料】



導入 Review - Mapping① - Speaking① - Feedback - Mapping② - Speaking② - Feedback - Speaking③ - Reflection



前時の発表動画を視聴して、良い点や参考にした点を共有したことで、子供たちは、それを自身の発話内容に生かすことができました。

視聴者から来たコメントの内容とマッピングシートを一体化させることで、子供たちが問いを意識しながら、伝えたい内容についてマッピングできた。

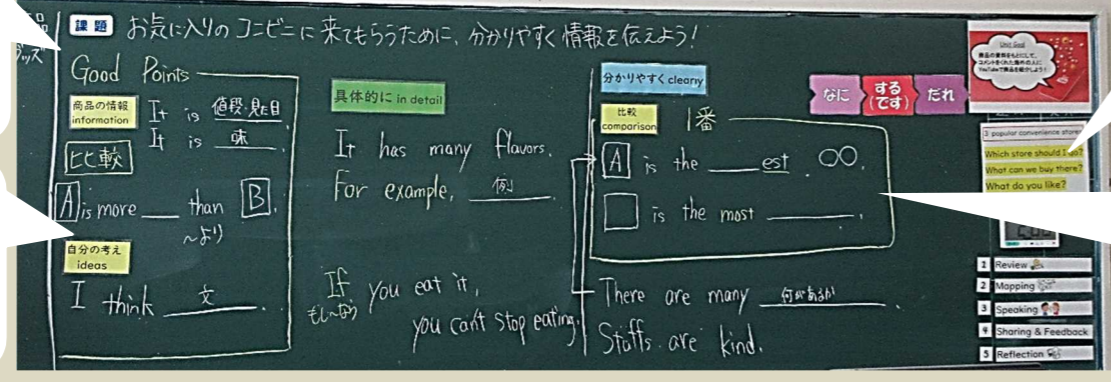
比較表現についてのヒントを、教科書本文から探し出し、いくつか例文を示すことで、教科書の有効活用ができ、比較表現の定着も図ることができた。

中間指導した内容を板書に示すことで、子供たちが、その内容を次の活動に生かすことができました。

録画した動画を視聴することで、発話内容を振り返ることができた。

動画をクラウドに提出させることで、形成的評価の材料となり、また、次時の始めに、グッドモデルとして示すことができた。

【本時の板書】



中間指導で、生徒から質問が出たタイミングで語順カードを活用しながら語順の確認を行うと、定着が図りやすくなる。

重要表現である英文を板書するだけでなく、「自分の考え」などキーワードも添えることで、どのような内容を盛り込んで話すとういことが視覚化できる。

問われているポイントをまとめて提示することで、本時の問いが明確になり、問いに返りやすくなる。

「一番おいしくて何て言う?」という子供からの質問に対して、「1番」A is the — est ○○.と示すことで、「一番きれい」や「一番有名」と言いたい他の生徒も汎用的に使うことができる。

事後協議テーマ:生徒の振り返りを基にした授業改善について

教材研究会

(模擬授業を受けた先生方が書いた振り返りと授業者が想定していた振り返りを見比べながら)  
**視点: 付けたい力を付けるための中間指導となっていたか。**

【単元づくり演習の様子】



**本時で付けたい力**  
 海外の人に日本のおすすめのコンビニに行ってもらうために、考えたことや感じたこと、コンビニについて書かれた資料からの情報を加えて、おすすめする理由などを、簡単な語句や文を用いて話す力。

**想定する振り返り例**

- より具体的に読解力を持たせて伝えるためには、ifを使ってどんな人におすすめかを伝えるとよいことが分かった。
- より具体的に伝えるためには、ifを使ってどんな人におすすめかを伝えるとよいことが分かった。
- 最も適切な表現は、the mostという表現を使うことが分かった。

Speaking①で自分の考えを伝え合わせた後、追加資料を読んで、内容を広げさせる展開が効果的だった。

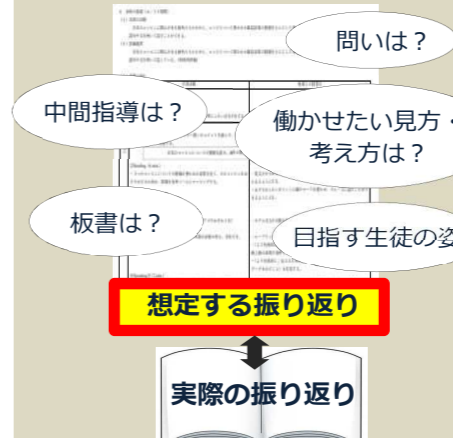
先生が作成したコンビニの資料が、最上級の表現を自然と使えるものになっていた。

「どの考えをどの順番で取り上げるのか」、「文と文のつながりは適切か」などを生徒同士が確認し深め合う場を設けるとよい。

板書に because \_\_\_\_\_ のように表現のみを示すのではなく、because 主語+動詞のように文構造で示すことで、文の中でどう用いればよいか、分かりやすくなるのではないかと。

授業研究会

(生徒が実際に書いた振り返りと授業者が想定していた振り返りを見比べながら)  
**視点: 本時の目標を達成する授業展開となっていたか。**



**生徒の振り返りを基にした授業改善**  
 授業者が、授業前に、**生徒の振り返りを生徒の言葉で想定し**、実際に生徒が書いた振り返りの記述と比べてみることで、「中間指導」「板書」...などの学習活動について振り返ることができ

ます。振り返りから見取れる生徒のつまづきには、**事後に手立てを講じるように**したいですね。

目標「話すこと [発表] イ」の付けたい力

生徒が話す量が確保できたら、次は、その中身に目を向けましょう。本単元の目標「話すこと [発表] イ」では、羅列的に事実を表現したり、事実と考えを整理することなく思いついた順番に表現したりすることがないように、話し手として伝えたい**事実や考えなどの順番を**考えながら、文の内容面や言語面に留まらず、**構成面も意識しながら話す力**を付けることが求められています。

